

型試合規約（国際空手道連盟ルール・第8回全日本選抜(3月開催)大会用）

1. 審判基準 審判員および審議委員は同等の権限をもって競技の審査に当たるが、競技に関する最終決定はすべて審判長の裁可による。旗判定は5名の審判員がどちらか一方の旗を掲げて行う。引分は無い。主審のみの判断は認めない。但し、5名の審判員はそれぞれに意義を申し立て協議する権利を有する。

2. 試合の区分 個人戦と団体戦を設ける。団体戦のチーム構成は3名とする。

3. 階級・型 (注1)2016年4月からの新学年基準で階級を選択すること (注2) 団体戦一般の部は、中学のみの編成を認めない。

個人戦 階級	個人戦 型 (予選)	団体戦 階級	団体戦 型 (予選)
小学1・2年生(男女混合)	平安一	小学生(男女混合)	小1～小6の個人戦型から自由選択
小学3・4年生(男女混合)	平安二		
小学5・6年生(男女混合)	平安四		
中学生男子	征遠鎮	中学生(男女混合)	全階級の個人戦型から自由選択
中学生女子	征遠鎮		
一般女子(高校以上35歳未満)	征遠鎮	一般 (注2) (中学～一般・男女混合)	全階級の個人戦型から自由選択
マスター女子(35歳以上)	征遠鎮		
一般男子(高校以上38歳未満)	征遠鎮		
マスター男子(38歳以上50歳未満)	征遠鎮		
シニア男子(50歳以上)	征遠鎮		

4. 試合の方法

【個人戦】

①各階級の予選型を一人ずつ単独で行う。審判員5名の内、主審を含む3名が全体の評価を付け、獲得ポイントを割り振る。

【全体の評価点順に獲得するポイント】

1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位以下
30	28	26	24	22	20	18

②他2名の審判員が基本項目の評価(減点、最大で▲12ポイント)を付ける。上記獲得ポイントから基本項目の減点を引き、総合評価点を算出する。

③総合評価点の高い得点者を上位として順位を付ける。

総合評価点が高い場合は、全体の評価による獲得ポイントが高い選手を上位とする。獲得ポイントが同点の場合、下記の項目順に点数を比較し、高得点者の方を勝者とする。

【総合評価点が高得点で、かつ全体評価による獲得ポイントも同点の場合の比較項目順】

1.雄大きさ	2.気迫・気合	3.柔軟性・運動性	4.下半身の安定・運足	5.技の緩急
--------	---------	-----------	-------------	--------

④原則として、決勝戦は行いませんが、全ての条件が同一の場合は、規定型の中から抽選した同一型で決勝の旗判定を行う。

【団体戦】

①団体戦はチームの構成員が全員同時に演技する形式で行う。型は、3の表の通りとし、開始位置は定めないが、開始方向は正面に向かうものとする。演技時間は2分以内。鳴り物、音楽の使用は禁ずる。

②全体評価6項目基準で、5名(又は3名)の審判により採点し、高得点者を上位として順位を付ける。

③決勝戦は、個人戦に準じ行い、旗判定で決する。

5. 着衣 選手は清潔な空手着を着用しゼッケンがある場合は背中中央に貼り付けること。袖、裾の折り返しを禁ずる。

6. 評価基準 / 採点方法

①移動時の全体評価(加点法) 下記5項目(団体戦は6項目)の基準で採点。但し、小学生の部は(注2)の項目の代わりに「動作の機敏性」を、女子は(注3)の代わりに「優美性・表現力」をみる。

① 身体全体を使った雄大きさ	② 気迫・気合(注3)	③ 柔軟性・技の運動性	④ 下半身の安定・運足
⑤ 技の緩急・切れ(注2)	⑥ (団体戦)協調性	(小学生)動作の機敏性	(女子)優美性・表現力

②技を極める瞬間の基本項目評価(減点法) ※個人戦のみ

下記項目におけるケアレスミスは-1、大きなミスや複数回続いたミスは-2の減点が与えられる。

3項目の合計で最大12ポイントが減点される。

評価項目	減点	備考
手技の正確性	0～6	正拳/裏拳/手刀等手技の正確性・決め位置・引き手・脇の締め・予備動作(無駄な動き)の有無
足技の正確性	0～2	足刀/中足/背足等足技の正確性・軌道・決め位置・蹴り足の着地時のコントロール(音を立てない)
立ち方/安定性	0～4	前屈/後屈/騎馬等立ち方の正確性・足先の角度・正確な方向・安定性、バランスを崩していないか(上体の反り・前傾・重心の位置)

③旗判定基準「協調性(団体戦のみ)」、「雄大きさ」、「気迫・気合」、「柔軟性・運動性」を優先し、同等であれば「下半身の安定・運足」、次いで「技の緩急」で比較する。

7. 減点 ①静止状態の極め動作で2秒以上、(それ以外の所で1秒以上)経過した場合、技の順番を見失ったとみなし、全体評価「技の運動性」において、1回毎に2点減点する。但し、「平安三」の結び立ちから前蹴りを出し騎馬立ちに移動する箇所はこの限りではない。

②型の順番間違え、気合いの箇所間違えは全体評価「技の運動性」において1回毎に2点減点する。

③移動中のつまづき、バランスを崩した場合、「下半身の安定と運足」からその度合いに応じ2-4点減点する。

8. 失格 ①審判員の指示に従わず、悪質な試合態度とみなされたとき。判定時の「雄叫び」「ガッツポーズ」等礼節を欠いた態度を取った場合失格となります。

②出場時刻に遅れたり、出場しないとき。

③申告した型と異なる型を演技した時。演技を途中で中断した時。演技中に場外に出たとき。演技時間が2分を超過したとき。

9. その他 ①道場・流派・会派による細部動作等の相違や気合の箇所の相違は評価基準の対象としません。

②判定に対する抗議は一切認めません。